



自然資本戦略

メディopalグループは、流通を担う企業として温室効果ガス排出量の削減は喫緊の課題と捉え、流通全体の最適化を図り、環境負荷の低減を進めるなど、SDGsの達成に向けた取り組みを推進しています。

環境負荷全体像

当社グループは、サプライチェーン全体における環境負荷の可視化と、その低減に向けた取り組みを進めるため、温室効果ガス排出量のScope1およびScope2に加えてScope3の算定を実施しています。

温室効果ガス排出量(自社排出分) 単位: t-CO₂

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
Scope1	30,700	28,439	31,081	31,208
Scope2 (ロケーション基準) ^{※1}	-	-	-	48,649
Scope2 (マーケット基準)	46,996	46,552	42,494	40,518
Scope1+Scope2 (マーケット基準)合計	77,696	74,991	73,575	71,726

温室効果ガス排出量 (Scope3)^{※2} 単位: t-CO₂

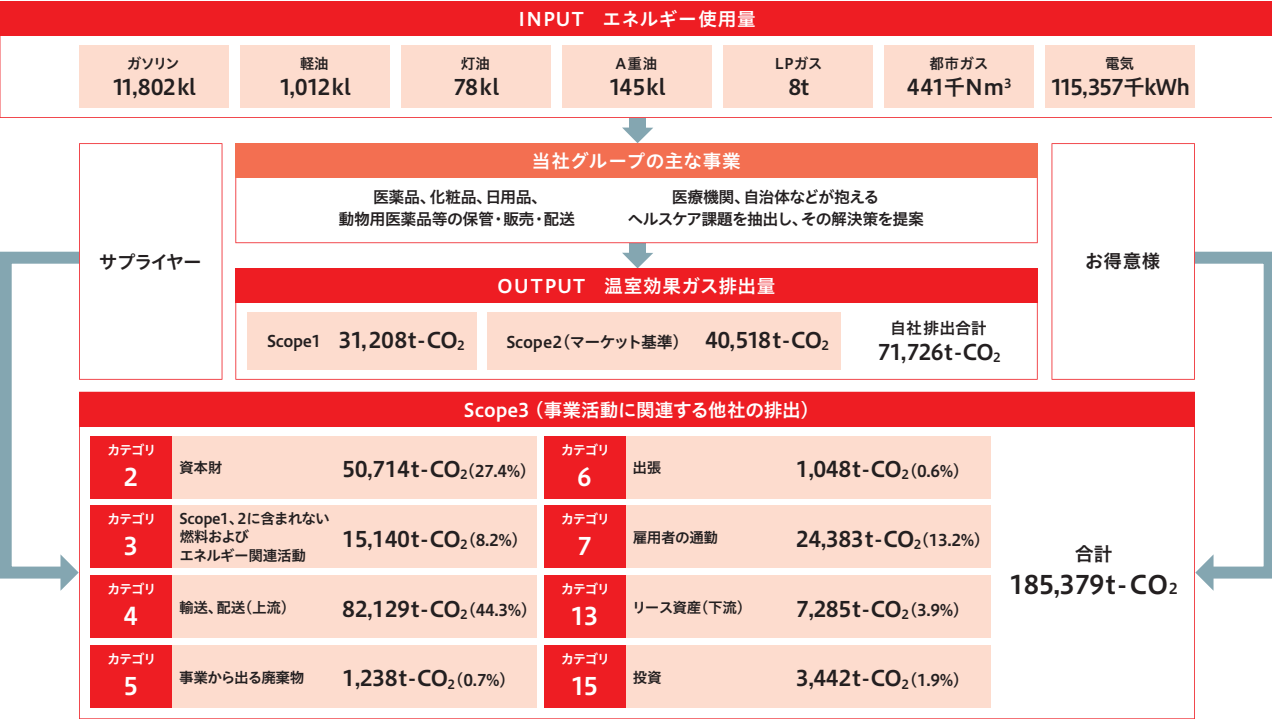
	2021年度	2022年度 ^{※3}	2023年度	2024年度
Scope3 合計	—	228,773	219,650	185,379

保有車両の温室効果ガス排出量

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
給油量(kl)	12,296	11,329	12,785	12,814
温室効果ガス 排出量(t-CO ₂)	28,803	26,543	29,561	29,679
車両台数(台) ^{※4}	8,025	8,555	9,608	9,555
車両1台当たり 排出量(t-CO ₂)	3.58	3.10	3.07	3.10

※1 2024年度分より公表
※2 2022年度分より公表。対象カテゴリ2、3、4、5、6、7、13、15。その他のカテゴリについては精度の高い算定に向けて、再精査中
※3 対象会社:(株)メディopalホールディングス、(株)メディセオ、(株)エパルス、(株)アトル、(株)MMコーポレーション、(株)PAL TAC、MPアグロ(株)、メディopalフーズ(株)
※4 3月末現在

サプライチェーン上の環境負荷



()内はScope3合計に占める割合

生物多様性への考え方

昨今、企業の環境への取り組みとして生物多様性への配慮が求められています。当社グループの事業において、現時点では生物多様性への依存・影響は限定的であると考えています。今後も事業と生物多様性との関わり方の分析を継続し、状況に応じた適切な開示に取り組みます。